

D  N

www.scu.ac.jp

札幌市立大学
研究・活動事例集

2024

札幌市立大学
SAPPORO CITY UNIVERSITY

大学本部・デザイン学部・デザイン研究科
芸術の森キャンパス:005-0864 札幌市南区芸術の森1丁目
TEL. 011-592-2300

看護学部・看護学研究科・助産学専攻科
桑園キャンパス:060-0011 札幌市中央区北11条西13丁目
TEL. 011-726-2500



札幌市立大学
SAPPORO CITY UNIVERSITY

札幌市立大学

研究・活動事例集

2024

札幌市立大学はデザインと看護の2学部、2研究科、助産学専攻科を設置し、「人間重視」と「地域社会への貢献」を基本理念に掲げ、デザインと看護の特色を活かした教育・研究・社会貢献活動に取り組んでいます。本冊子は産学官金連携・地域連携等にさらに積極的に取り組むため、多くの方々に本学教員の最新の研究活動事例をご紹介することを目的に発行いたしました。札幌市立大学教員の教育・研究、地域社会との連携活動に関心を持っていただければ幸いです。

(本文中の役職は 2023 年度当時のものです)

研究・活動事例集 2024

I. 研究交流活動<2023年度 SCU産学官金研究交流会>(2023.11.29 アスティ 45 ACU-A16 階 大研修室)

- 02 1. いたみを推しはかり表出するテーブルゲーム「みたいたみ」の開発
看護学部 教授 定廣 和香子
- 06 2. 東洋医学初学者向け教材のデザイン提案
デザイン学部 教授 細谷 多聞
デザイン学部 准教授 小宮 加容子
- 10 3. 地域のこどもと市民活動を結ぶこども通貨“ヤオ”
デザイン学部 准教授 片山 めぐみ
- 12 4. ノンプレイヤーキャラクターの人だかりによるバーチャル環境内での経路誘導
デザイン学部 教授 石井 雅博
- 16 5. 札幌圏での大雪時の Twitter データおよび人流データ分析
AIT センター 教授 高橋 尚人
- 18 6. ポスター・展示発表一覧

II. 展示会等の参加

- 22 1. 「北洋銀行ものづくりサステナフェア 2023」(2023.7.20 アクセスサッポロ)
・「きほんのきのかい」及び地域産学連携事業の紹介
デザイン学部 教授 細谷 多聞
デザイン学部 准教授 小宮 加容子
- 24 2. 第37回 北海道 技術・ビジネス交流会「ビジネス EXPO」(2023.11.9~11.10 アクセスサッポロ)
・木製遊具「ユールボード」のプロジェクトを紹介
デザイン学部 教授 三谷 篤史

III. 地域連携・地域貢献活動

- 28 1. 公開講座開催
- 31 2. 受託研究
- 31 3. 共同研究
- 32 4. 地域貢献(地域産学連携協力依頼)
- 42 5. 研究支援地域連携センターのご案内



研究交流活動

＜2023 年度 SCU 産学官金研究交流会＞

2023 年 11 月 29 日(水)14:00～16:25 アスティ 45 ACU-A16 階 大研修室 1614

【カテゴリー1：看護】

- 1. いたみを推しはかり表出するテーブルゲーム「みたくないたみ」の開発

定廣 和香子(看護学部 教授)

【カテゴリー2：デザイン】

- 2. 東洋医学初学者向け教材のデザイン提案

細谷 多間(デザイン学部 教授)

小宮 加容子(デザイン学部 准教授)

- 3. 地域の子どもと市民活動を結ぶ子ども通貨“ヤオ”

片山 めぐみ(デザイン学部 准教授)

- 4. ノンプレイヤーキャラクターの人だかりによるバーチャル環境内での経路誘導

石井 雅博(デザイン学部 教授)

【カテゴリー3：AI】

- 5. 札幌圏での大雪時の Twitter データおよび人流データ分析

高橋 尚人(AIT センター 教授)

ポスター・展示発表一覧



広報チラシ(表)



広報チラシ(裏)

Title

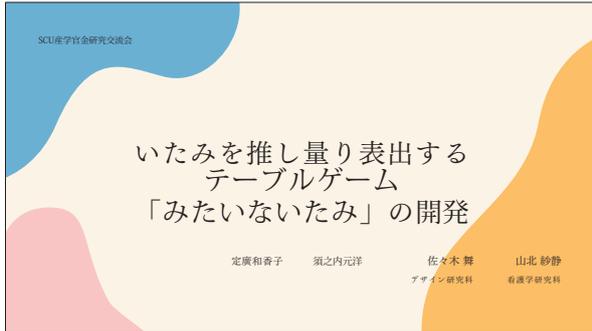
いたみを推しはかり表出するテーブルゲーム「みたくないいたみ」の開発

Author

定廣 和香子

札幌市立大学 看護学部 教授

テーブルゲーム「みたくないいたみ」は、幅広い年代が、楽しみながら相手や自分の「いたみ」について語り、感じる機会を創出する。大学院のデザインと看護の連携科目を履修した学生2人が発想、制作したユニークな作品となっている。研究交流会では、開発中の「みたくないいたみ」プロトタイプを紹介する。参加者の皆様には、ぜひ、手に取って試していただき、さまざまな「いたみ」について語り合う機会をいただきたい。



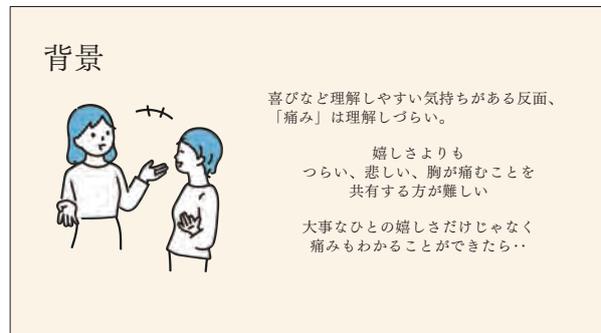
01



02



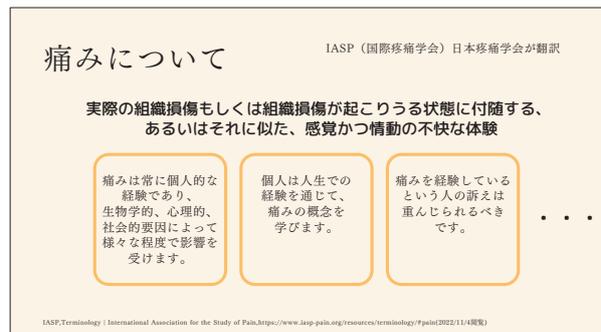
03



04



05



06

遊び方

1

自分と相手を感じるいたみ駒の数の違いを比べる。

お題カードを引きそのお題に対してそれぞれが自分のいたみの強弱を考え、台座にいたみの強弱に合った駒の数をセットする。

2

お題に対して相手を感じるいたみ駒の数をあてる。

先攻はお題カードを引きそのお題に対する自分のいたみの強弱を考え、台座にいたみの強弱に合った駒の数をセットする。

↓

後攻は先攻にとってのいたみの強弱を考え、台座にいたみの強弱に合ったいたみ駒の数をセットする。

互いのいたみ駒の数を確認し、いたみの感じ方の違いについて話す。

15

いたみ駒の見た目

個数

形

大きさ

色

すべての駒をシンプルな形と同じ大きさに統一
痛みを連想させやすい赤色の使用は避けた

16

いたみのスケール

簡便で、医療現場で頻りに用いられている NRS をいたみを定量化する方法として参考にした

0 ~ 5 の 6 段階も検討

↓

多種多様ないたみについて考えるために
より表現が幅広くなるよう 11 段階とした

0 1 2 3 4 5 8 7 8 9 10

痛みなし 考えられる中で
最悪の痛み

17

お題の内容

プレイヤーは
お題に対するいたみの感じ方の強弱を考え
その思考過程を説明する

プレイヤー同士が
お題の状況を共通認識できるように
身近なお題を選択するために・・・

普段いたみを感じる状況や場面について意見を出し合った

18

お題の分類

身体的苦痛

足を腫れさせる
予防注射をする
お腹を壊す

正確で足が痺れる
ドアに指を挟む

精神的苦痛

旅行で大雨
汗が止まらないほど暑い
手が痺むほど寒い
喧嘩をして言い争う

無視される
(友人・クラスメイト・同僚に)
(家族・ペット・友人が)なくなる
(友人・上司・先生・親に)怒られる
寂しかったものが突然なくなった
いずれ出るような事故に遭う・病気になる

社会的苦痛

今世界で起きている戦争のニュースをみる
ゲーム時間制限される
好きなエンタメが最終回を迎える

過去に起きた戦争のドキュメンタリーをみる
映画が見える
好きなエンタメが最終回を迎える

別室を早く切られた
分断する・される
(自分・家族の)仕事がない

19

実際に遊んでみると (違いを比べる遊び方①の場合)

お題「40歳でパートナーを失う」の場合

40歳ってことは
まだ15年くらいしか
連れ添ってないし・・・

でも5くらいは
悲しいかも

これからさきのことを
考えてしまおうから・・・

自分も相手も
また若いのに・・・

20

期待される効果 (違いを比べる遊び方①の場合)

- 1 同じお題に対する 自分と相手の感じるいたみの強弱の違いを、同じものを見て感じることができる
- 2 自分が感じるいたみの強弱を相手に提示することで、感じ方を出し出す機会や、対話から相手との違いに気づくことができる
- 3 自分のいたみ駒の数を考える際には、先に出たお題に対して自分が示した数を思い出して比べることがある
比較対象は相手だけでなく、自分も含まれている
→自己理解にも繋がる可能性

21

実際に遊んでみると (予想する遊び方②の場合)

お題「(自分の)仕事なくなる」の場合

資格があるからなんとかなる
っていったような・・・

わかってきたぞ!

当てる側

実際に今
仕事辞めて学生してるし

資格がなくならなければ
きっとなんとかなる

当てられる側

22

期待される効果 (予想する遊び②の場合)

- 1 お題に対する相手のいたみの強弱をあてるために、想起する
→相手が他のお題でどのようないたみの感じ方の強弱を示していたか?
過去にお題と類似したエピソードを話していたことはなかったか?
- 2 相手の思考過程を想像しながら行っていく
→相手の気持ちを推し量る作業
- 3 回数を重ねるにつれて、
相手が示すいたみの強さが自分の予想と一致することがある
→楽しさに繋がる
→相手の気持ちの理解に繋がる

23

期待される効果 (このツールならではの特徴)

対話の際…
自分のいたみの強弱を
無意識に駒を用いて表現することがあった

「この場合であれば私なら
このくらい減ったかもしれない」

いたみの感じ方の強弱を11段階の数値として定量的に
+
台座上の駒の高さとして視覚的に表現



数字の表記のみでは起こり得ない
このツールならではの効果であったといえる

24

まとめ

お題に対する、自分と相手との違いや予想との違いを
可視化できる。

違いへの興味を自然に抱くことに繋がりがり、
いたみについて気軽に話す・聞くきっかけとなった。

遊びを通して違いを経験し、
相手の気持ちを楽しく推し量るきっかけや場を生み出す
というツールの目的を達成する可能性がある。

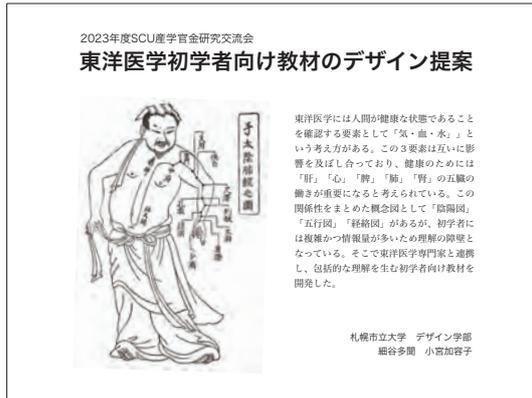
25

今後の展望

- 実際にプロトタイプを検証
- ツールが相互理解の促進やストレスとして与える影響を評価
- 対象年齢やお題の妥当性を検証
- ガイドブックを制作、さらに幅広い年代が使いやすいツールへ

26

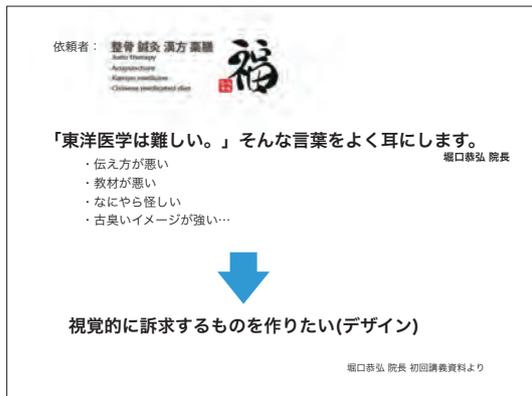
東洋医学には人間が健康な状態であることを確認する要素として「気・血・水」という考え方がある。この3要素は互いに影響を及ぼし合っており、健康のためには「肝」「心」「脾」「肺」「腎」の五臓の働きが重要になると考えられている。この関係性をまとめた概念図として「陰陽図」「五行図」「経絡図」があるが、初学者には複雑かつ情報量が多いため理解の障壁となっている。そこで東洋医学専門家と連携し、包括的な理解を生む初学者向け教材を提案した。



01



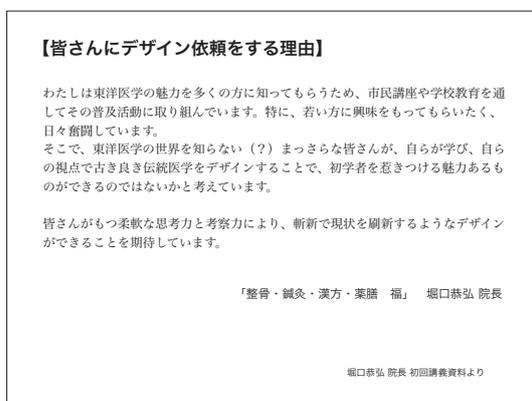
02



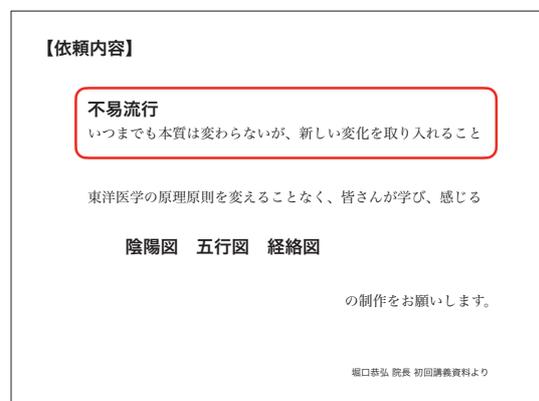
03



04



05



06

気・血・水

- 気 からだを動かすエネルギー（血や水も動かす）
- 血 全身に栄養を与える
- 水 水分代謝にかかわる



07

陰陽論

「陰と陽のバランス」を表す。
 白色が「陽」、黒色が「陰」を表しており、「天地万物あらゆるものは陰と陽のバランスによって成り立っている」ことを示す。

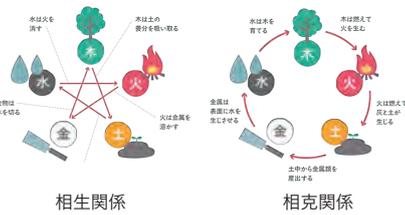


陰陽図

陰	陽
月	太陽
裏	表
偶数	奇数
闇	光
暗さ	明るさ
柔らかさ	剛さ
水	火
冬	夏
夜	昼
植物	動物
女性	男性

08

五行論



相生関係

相克関係

09



【陰陽図】

デザイン学部2年生 小原千宥

10



【五行図】

デザイン学部2年生 小原千宥

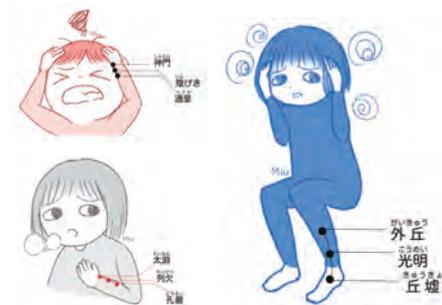
11



【経絡図】 (1/6)

デザイン学部2年生 小原千宥

12



【経絡図】 (3/10)

デザイン学部3年生 岡和田未希

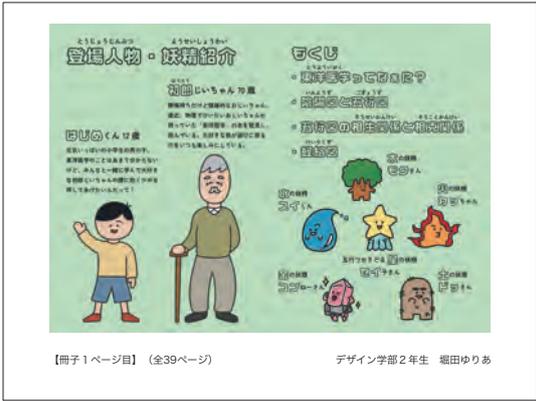
13



【冊子表紙】 (全17ページ)

デザイン学部2年生 岩田遼香

14



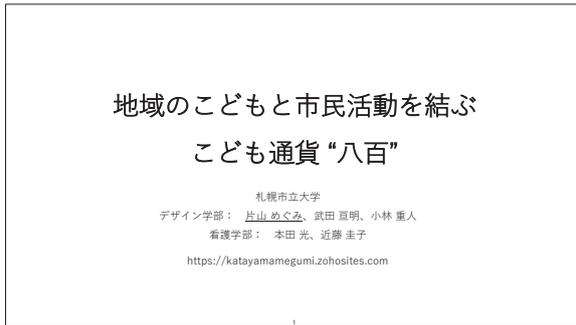
15

16

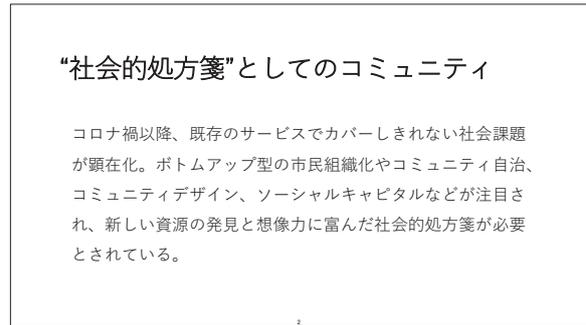


17

我が国ではこどもの居場所としての地域コミュニティ構築が課題となっている。本研究は、札幌市立大学の学生達が発足した住民参加型マルシェ「八百カフェ」の中に、こども達がお手伝いや商品開発・販売ができる「こども八百カフェ」を立ち上げた。こども通貨“ヤオ”を導入し、こども達がマルシェでの活動を通して地域の大人や大学生と感謝の気持ちを交換し、自己貢献意識・援助要請意識を高めることができるコミュニティをデザインする目的がある。



01



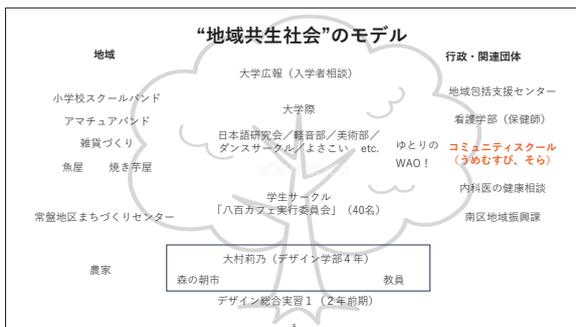
02



03



04



05



06

デザイン学部の小林が研究してきた地域通貨を導入

- 商品制作などの手伝いで地域通貨を貯めることができ、貯めた地域通貨を「八百カフェ」で買い物に使用できる
- 子ども達が手伝いでもらった際、スタッフからの「ありがとう」の手書きメッセージが記載される
- 試行期間は2023年1月～10月、2団体30名が参加
- 来年度に向けてしくみの再検討中（本格的な研究は来年度から開始予定）

07

08

参加した子ども達の声

- 「八百カフェに行った時、お手伝いで作ったガーランドが飾ってあって嬉しかった」
- 「お客さんから作品を褒められてうれしかった」
- 「趣味にしていたレジン作品が売れると思わなかった。来年に向けてキーホルダーとネックレスを作りたい」
- 「お客さんに笑顔で挨拶してもらって温かい場所だと思った」
- 「森の中で木や土の香がして落ち着けた」
- 「八百カフェに行くまで通貨のしくみが分からなかった」
- 「自宅が遠いのでなかなか八百カフェに行けない」

09

運営者と学生スタッフの声

- 「八百カフェでは売れ行き好調で休日もなかった。今ではご両親とインスタでの販売も考えているとのこと。彼女にとって好きなことで自立できるきっかけにもなったようだ。」
- 「子どもがお店で交わしたひと言に救われたとお便りをいただき、その後ほのぼのとするようなやり取りが続いている。地元の方々と触れ合う大切なチャンスであることを実感あした。」
- 「出店前日に値段やラッピングを一緒に考えたときは緊張しながらもワクワクしている様子だった」
- 「かぎ針編みにはまって他の子ども達に教える立場にもなってくれた」
- 「八百カフェのキャラクターのレジン商品を試作してくれた」
- 「通貨に書いてあるメッセージを嬉しそうに読んでいる様子が印象的」
- 「来年は楽器が得意なメンバーでセッションして八百カフェで聴いてもらう」と提案した」

10

今後は、

- 地域にも工作や雑貨づくりが得意な住民がおり、学生スタッフの伴奏支援は短期間でも問題ないように感じた
- 提携したフリースクールの子どもや運営者が創作プログラムと地域通貨の運用に慣れるまで一定期間スタッフを派遣するしくみとする
- 「八百カフェ」に来てはじめて手伝いや通貨の意味が分かったという子や、通貨が貯まる一方で使う機会がないため通貨に書かれたメッセージも印象に残っていない子がいることが分かった
- 2024年度から別のフリースクールも参加予定

11

コミュニティの価値を可視化する通貨

コミュニティの価値を可視化する通貨

コミュニティアリズム (マイケル・サンデル)

- 共通感覚を失ったにも関わらず、共にいることの苦痛が爆発しているのが今のアメリカだ
- 人はそれほど個人的自由では振る舞えない存在。自分の置かれたコミュニティの共通善 (コモンセンス) に左右され、自己の置かれている状況としてのコミュニティに大きく影響を受けている。
- コミュニティの共通性を重視し、人々が共に行動することを重視する処方箋が必要
- コミュニティの価値を可視化するスマホアプリの開発 (タイアップ企業を探し中)

12

VRによって様々な環境が体験可能となってきた。教育、観光、エンターテインメントなどの領域に応用され、ユーザーはバーチャル環境内をウオークスルーしながら自由に見て回ることができる。環境内に見どころがある場合、矢印による経路誘導、バーチャルツアーコンダクターによる引率、テキストによる指示などが行われる。本研究では、見どころの周囲にノンプレイヤーキャラクターの人だかりを作ることでユーザーの経路を誘導できるか調べた。

ノンプレイヤーキャラクターの人だかりによる
バーチャル環境内での経路誘導

デザイン学部
石井雅博・伊潤恬

Yin & Ishii, A method of guiding users strolling around a virtual environment based on the bandwagon effect generated by a crowd of virtual humans. Virtual Reality (Under Review)

01

背景

バーチャルリアリティ技術を活用した見学・遠足・観光
実際にその場に赴くことが困難な場合に有効

空間的制約



遠い・小さい

時間的制約



過去・未来

他の制約



規制・危険・高コスト

02

背景

既存の案内法

音声

テキスト

シンボル

光(スポット)

音

エージェント

・体験の自由度が低い

・強制感を生み出す

・視界に指示があるため視野が覆われる

・ビジュアルデザインが良くない

ユーザが意識しないように指示を与える

03

着眼点

多くの人がある場所で集まっている時、自分もその場所へ見に行きたいと感じる

バンドワゴン効果



制約感を感じさせない案内ができるのではないかな？

04

ノンプレイヤーキャラクターを見どころの周囲に配置

バーチャルヒューマン（ノンプレイヤーキャラクター）を見どころの周囲に置いたらユーザーはそこに行きたくなるのでは？

05

VR空間内での群集心理に関する既存研究

- ・火災時の出口を探すタスク
- ・緊急状況でVR空間内のキャラクターの行動は被験者の意思決定に影響する。
- ・バーチャルキャラクターが多いほど、被験者はそれらについていく確率が高くなる。



火災避難訓練

06

研究目的

バーチャルヒューマンの人だかりによる誘導が可能か？

↓

ユーザーがVR空間で見学する時の効果を明らかにする

7

07

VR空間でバンドワゴン効果を生むバーチャル群集のデザイン

デザイン要素

- キャラクターの外見
- キャラクターの数
- キャラクターたちの配置
- キャラクターの行動

8

08

VR空間でバンドワゴン効果を生むバーチャル群集のデザイン

デザイン要素

- キャラクターの外見
- キャラクターの数
- キャラクターたちの配置
- キャラクターの行動

- 目的とするバーチャル環境内での存在が想定される外見 (TPOに合わせる)
- 場違いなキャラクターは雰囲気破壊

9

09

VR空間でバンドワゴン効果を生むバーチャル群集のデザイン

デザイン要素

- キャラクターの外見
- キャラクターの数
- キャラクターたちの配置
- キャラクターの行動

- 5名から10名程度
- 少ないと群集として認知されない
- 多いと、接近が困難に感じられたり、目的の場所が見えなくなる

10

10

VR空間でバンドワゴン効果を生むバーチャル群集のデザイン

デザイン要素

- キャラクターの外見
- キャラクターの数
- キャラクターたちの配置
- キャラクターの行動

- 目的の場所の周囲に配置
- 円状に取り囲む、あるいは、横並び
- 移動する対象には、群集はついていく

11

11

VR空間でバンドワゴン効果を生むバーチャル群集のデザイン

デザイン要素

- キャラクターの外見
- キャラクターの数
- キャラクターたちの配置
- キャラクターの行動

- 対象物を見ている
- 対象物を指差す動作や仲間同士で話す

12

12

試作

題材：立春（二十四節気）
ユネスコ無形文化財



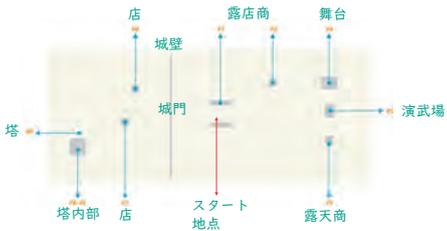
環境：PC (Core i7, 3.4GHz, 16GB, Windows10)
GPU (GeForce RTX 2060 Super)
HMD (HTC VIVE)
モデリング 3ds Max, C4D
開発プラットフォーム Unity



13

13

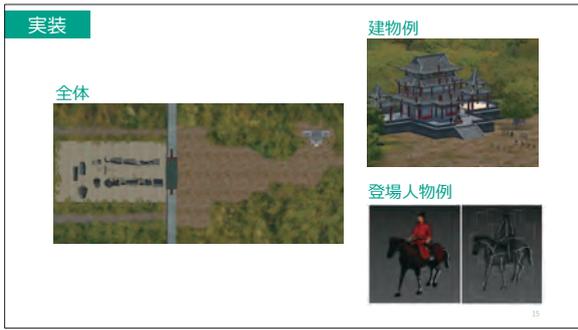
試作（建物や人々の配置）



町の中を新年を祝う隊列が通っていく

14

14



15



16

評価実験

比較する

実験条件

バンドワゴン効果

対照条件

文字と図形による指示
わかりにくい行き先を指示
途中明らかに視野に入るものは指示なし

被験者のタスク

- 自由に見て回る
- 十分に見たら、観察を終える

17

評価実験（行動分析）

行動追跡（ログ解析）を行い、
見どころを観察した回数と総滞在時間を計数

18

評価実験（主観評価）

アンケート（各10点満点）

Q1	立春祭りの印象は強く残りましたか
Q2	立春祭りへの興味は引き出されましたか
Q3	実体験のような感覚を生み出しましたか
Q4	昔の中国の立春の雰囲気を感じましたか
Q5	昔の中国の立春に対する理解は深くなりましたか
Q6	自由に、制約を感じないで、VR空間を参観できましたか
Q7	今回のVR体験は面白かったですか
Q8	満足するまで十分にVR空間内を移動できましたか
Q9	満足するまで十分にVR空間を見られましたか

その他：感想（自由記載）

実験条件（提案法）と対照条件（従来法）を比較

19

実験手順

被験者
22名（20～64歳、平均28歳、標準偏差11歳）
男性13名、女性9名

順序効果を低減するため
被験者を2群に分け、
体験順を変えた

グループ1 11名
従来法
アンケート

グループ2 11名
提案法
アンケート

20

結果（閲覧数と体験時間）

見てほしいところに到着した人数

体験時間（単位：秒）

提案法は従来法より、多くの場所を見る、長く体験する。

21

結果

T検定
Q4、Q6、Q8、Q9では提案法が従来法より高く評価
その他の項目は有意差なし

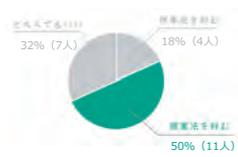
効果あり
雰囲気、自由度、満足度

差なし
印象、理解、現実感、面白さ

Q1	昔の中国の立春祭りの印象は強く残りましたか
Q2	昔の中国の立春祭りへの興味は引き出されましたか
Q3	体験したVRは、実体験のような感覚を生み出しましたか
Q4	昔の中国の立春の雰囲気を感じましたか
Q5	昔の中国の立春に対する理解は深くなりましたか
Q6	自由に、制約を感じないで、VR空間を参観できましたか
Q7	今回のVR体験は面白かったですか
Q8	満足するまで十分にVR空間内を移動できましたか
Q9	満足するまで十分にVR空間を見られましたか

22

結果（自由記載分析）



従来法を好む人は、

- 人混みが嫌い
- 両足を好む

提案法を好む被験者が最も多い

23

結論

バーチャルキャラクターの行動がユーザーの行動にどの程度影響するかを評価することに関心を持った。実験結果から：

バンドワゴン効果の影響を受けたキャラクターの存在によって、ユーザーは自分自身の意思決定を行わず、キャラクターの中で多くのキャラクターが行っていることに従う可能性が高くなる。

特定のタスクが与えられると、そのタスクに集中するあまり、周囲を散策したり観察したりする時間が少なくなってしまうこともある。

24

23

24

研究結論

- バンドワゴン効果に基づく制約を感じさせないVR見学のための暗示的行動誘発法は有効
- バーチャルキャラクターの行動はユーザーの行動に影響を与えるため、バーチャル環境の全体的なリアルさを追求するのは重要

25

25

Title

札幌圏での大雪時の Twitter データおよび人流データ分析

Author

高橋 尚人

札幌市立大学 AIT センター 教授

2021-2022 年冬期は、札幌都市圏で複数回の大雪があり、2022 年 2 月 5 日～6 日には札幌管区気象台の 24 時間降雪量が 60cm を記録する大雪に見舞われ、交通機関や市民生活に多大な影響が及んだ。本研究では、SNS(Twitter/ 現 X) に投稿された大雪関連の投稿データおよび人流データを、大雪の影響を分析した。

札幌圏での大雪時の Twitter データおよび人流データ分析

SCU 産学官金研究交流会
2023年11月29日

札幌市立大AITセンター 高橋尚人

01

令和3年度冬期 札幌の降雪・積雪の状況

札幌の降雪・積雪の概況

- 最深積雪 133cm (2022年2月6日)
- 累計降雪量 476cm ※平年値461cm

札幌の主な大雪事象：

- 12月17日～18日：24時間降雪量 55cm (1999年の統計開始以降最多)
- 1月11日～13日：3日間の降雪量 46cm
- 2月5日～6日：24時間降雪量 60cm (最多記録を更新)
- 2月20日～23日：4日間の降雪量 51cm

02

SNSデータの抽出

- SNS (Twitter) に投稿された大雪関連の投稿データを抽出。
- Twitterデータの抽出には、FASTALERT (JX通信社) を利用。
- データ抽出条件：
 - 対象期間：令和3(2021)年11月1日～令和4(2022)年3月31日
 - 対象エリア：札幌市
- 抽出カテゴリ：
 - 雪関係 (積雪、雪害)
 - 道路・交通トラブル (道路渋滞、交通事故など)
 - 鉄道トラブル

03

抽出データの概要 (月別)

- 計2,892件のツイートを抽出。月別では2月が最も多く1,140件。
- カテゴリ別では、道路・交通トラブル関連のツイートが最も多く1,467件、ついで雪関係1,011件、鉄道トラブル414件
- 2月の雪関係のツイート件数が651件と突出して多い。

月	雪関係	道路・交通 トラブル	鉄道 トラブル	合計
11月	45	219	50	314
12月	132	350	75	557
1月	144	354	169	667
2月	651	396	93	1,140
3月	39	148	27	214
合計	1,011	1,467	414	2,892

04

抽出データの概要 (日別)

- 2月5日～6日の大雪の際は雪関係のツイートが1日で300件を超えた。
- 2月7日には道路・交通トラブルのツイートが1日で100件近くあった。6日で雪は止んだが、7日(月)に通勤等で支障があった人が多かったためと考えられる。
- 2月20日～23日の大雪の際にも雪関係のツイートが1日で100件を超えた。

05

2月の大雪時の時間別ツイート

2月5日～6日の大雪時： 2022年2月5日～8日の時間別降雪量とツイート件数

2月20日～23日の大雪時： 2022年2月20日～23日の時間別降雪量とツイート件数

06

Twitterデータのテキストマイニング

- テキストマイニング：
 - 自然言語解析の手法を使って文章データを解析し、有益な情報を取り出す。
 - ※テキストマイニングで分かること（例）：
 - ✓ 単語の出現傾向：単語がどれくらいの回数出現しているか？
 - ✓ 単語の共起関係：ある単語が出現したときに、一緒に使われる単語
- 分析ツール：ユーザーローカル テキストマイニングツール (<https://textmining.userlocal.jp/>) を使用

07

ワードクラウド

ワードクラウド：出現頻度の高い単語を複数選び出し、その値に応じた大きさで図示

- 各月で“事故”が頻出
- 2月は“スタック”が頻出し、他、“埋まる”、“雪”、“除雪”の出現が頻度が高い
- 3月に“スタック”が頻出

※単語の色は品詞の種類を表し、同じ品詞、同じ動詞、同じ形容詞、同じ名詞を表す。

08

出現回数の多い単語

月ごとに出現回数の多い単語を抽出

- 常に上位にあるワード：
 - 事故、車
- 概ね上位にあるワード：
 - 札幌、雪 ※いずれも3月に順位が下がった
 - 渋滞 ※12月に降上位で推移
- 順位が上がったワード：
 - スタック
 - ※12月64位→1月12位→2月5位→3月3位
- 順位が上昇したが3月に下がったワード：
 - 除雪、埋まる

09

共起ワード

共起：一文の中に単語のセットが同時に出現すること。

- 11月～1月は交通事故に関する語の共起が多い。
- 2月は埋まる、スタック、雪など、雪に関係する共起が多い。
- 3月は再び事故に関する共起が多くなったが、車のスタックに関する共起もあった。

11月	12月	1月	2月	3月
事故 通り	事故 車	事故 方面	埋まる 車	事故 方向
事故 交差点	事故 通り	事故 車	スタック 車	自動車 事故
事故 車	事故 交差点	方面 札幌	札幌 雪	(車種) 事故
事故 札幌	札幌 雪	事故 札幌	車 雪	事故 車
中山峠 事故	事故 札幌	事故 通行止め	積もる 雪	事故 車
積もる 雪	事故 渋滞	事故 通り	スタック トラック	事故 交差点
事故 方面	事故 付近	事故 付近	事故 車	事故 付近
事故 事故	事故 車線	事故 渋滞	車 雪	事故 渋滞
事故 付近	事故 方面	事故 処理	車 除雪	事故 方面
事故 通行止め	新川 通り	丁目 事故	事故 交差点	スタック 車

10

人流の分析

- スマートフォンの位置情報データを日本の総人口規模に換算する人流データを用い、大雪時の人流変化の把握を試みた。
- 本研究では、KDDI Location Analyzer (KLA) を使用
- KLAは、日単位・時間単位で小地域 (125mメッシュ) の人流を把握

①冬期間の日別人流の推移

11

人流の分析 (続き)

①大雪時の日別人流の推移

12

人流の分析 (続き2)

①大雪時の時間別人流の推移

13

まとめ

- 道路・交通トラブルに関するツイート件数は、降雪後の通勤・通学時間帯に増えた。
- ツイートのテキストマイニングからは、降雪の状況や、降雪に伴って生じた影響との関連性を感じさせる分析結果となった。
- 人流データには、大雪による都市機能の低下と回復の状況が現れたと考えられる。
- 大雪などの気象事象の客観的な評価には、降雪量など気象値などの客観データが有用であるが、例えば、5cmの降雪があった場合、東京と札幌では降雪の影響が全く異なるものとなる。
- 大雪が市民生活に与えた影響の評価には、気象値に加え、SNSデータや人流データを活用することも有効と考えられる。

14

ポスター・展示発表一覧

【札幌市立大学】

発表者	発表者所属 / 共同研究者	研究課題
細谷 多聞 小宮 加容子	デザイン学部 教授 デザイン学部 准教授	東洋医学初学者向け教材のデザイン提案
定廣 和香子	看護学部 教授 細谷 多聞(デザイン学部 教授) 下水流 裕斗(北里大学病院) 三浦 友理子(聖路加国際大学)	心電図初学者のための3D 学習教材の開発 —理論的枠組みとプロトタイプデザインの報告—
三戸部 純子	看護学部 講師	薬剤情報の差異検出に関する実験的検討—薬剤名と薬剤量ではどちらがミスを見逃しやすいのか—
須之内 元洋	デザイン学部 講師 佐々木 舞(デザイン学研究科) 山北 紗静(看護学研究科) 三谷 篤史(デザイン学部 教授) 定廣 和香子(看護学部 教授)	いたみを推しはかり表出するテーブルゲーム「みたくないたみ」の開発
矢野 祐美子	看護学部 講師	中小規模病院の看護師長を対象としたオンライン学習プログラムの構築
並木 翔太郎	デザイン学部 准教授 石田 勝也(デザイン学部 講師) 須之内 元洋(デザイン学部 講師)	アイトラッキング分析による札幌円山動物園「こども動物園」の利用実態解明
片山 めぐみ	デザイン学部 准教授 本田 光(看護学部 准教授) 武田 亘明(デザイン学部 准教授) 小林 重人(デザイン学部 准教授) 近藤 圭子(看護学部 助教)	地域のこどもと市民活動を結ぶこども通貨“ヤオ”
御手洗 洋蔵	デザイン学部 准教授	現代に求められる貸農園のあり方:利用者への意識調査から
西川 忠	デザイン学部 教授	札幌軟石を使用した組積造建築物の耐震性診断法に関する研究
若林 尚樹	デザイン学部 教授 政倉 祐子(愛知淑徳大学) 田邊 里奈(千葉工業大学)	総合的な学習における教材としてのペーパークラフトの活用 —「こんな学校にしたい！」ぼくの、わたしの夢の学校を作ってみる
齊藤 雅也	デザイン学部 教授 辻原 万規彦(熊本県立大学) 伊澤 康一(福山大学)	地域の気候風土を活かす住みこなしの「想像温度」による評価 夏季の札幌・福山・熊本での「想像温度」調査
張 浦華	デザイン学部 准教授	札幌軟石の“施釉”と“焼成”および応用への展開に関する基礎研究
石井 雅博	デザイン学部 教授	ノンプレイヤーキャラクターの人だかりによるバーチャル環境内での経路誘導
小林 重人	デザイン学部 准教授 藤原 正幸(九州工業大学大学院)	フローを可視化するデジタル地域通貨「Com-Pay」
高橋 尚人	AIT センター 教授	札幌圏での大雪時の Twitter データおよび人流データ分析
藤木 淳	デザイン学部 教授 檜山 明子(看護学部 准教授) 松永 康佑(デザイン学部 講師) 吉田 実和(看護学部 助教)	看護教育のための血圧測定を入力インターフェースとして用いたゲームの試作
松永 康佑	デザイン学部 講師	四分円環体が連結した運動によるアニメシー知覚に関する研究

【北海道立総合研究機構】

発表者	発表者所属 / 共同研究者	研究課題
古田 智絵	食品加工研究センター食品開発部	道産マイワシとサバを活用した「骨まで食べられる一夜干し」の開発
	植田 弘美(酪農学園大学)	
佐々木 優二	北方建築総合研究所	地域差を考慮できる新たな熱中症危険度の判定手法の提案
	鬼塚 美玲(札幌市立大学)	
	齊藤 雅也(札幌市立大学)	
	須永 修通(東京都立大学)	
大久保 京子	ものづくり支援センター開発推進部	生体情報に基づく好意推定手法の開発 -心拍情報のみを用いた手法について-
	安田 星季(ものづくり支援センター)	
	神生 直敏(ものづくり支援センター)	
	今岡 広一(ものづくり支援センター)	
稲野 浩行	エネルギー・環境・地質研究所	ガラス廃材の価値を高めるアップサイクリング
	明本 靖広(エネルギー・環境・地質研究所)	
	朝倉 賢(エネルギー・環境・地質研究所)	
西宮 耕栄	森林研究本部・林産試験場	木質ペレットを用いた熱分解ガス化発電所から発生する副産物(チャー)の土壌改良効果
	本間 千晶(森林研究本部・林産試験場)	
森井 泰子	畜産試験場	道産地鶏「北海地鶏Ⅲ」の生産性と利用性の向上を目指した技術開発
	食品加工研究センター・食品開発部	
前田 高志	稚内水産試験場	道産海藻の利用拡大に向けた研究 -北海道の有用海藻は昆布だけじゃない!?道産海藻の陸上養殖事業化を目指す①-
	山田 晃平(留萌市農林水産課)	

【北海道中小企業家同友会】

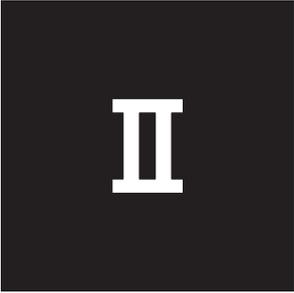
発表者	発表者所属 / 共同研究者	研究課題
七戸 千絵	(株)The St Monica	大学由来の藤の花を原料とした化粧品開発 ~プロジェクトマネジメント学で実践する産学連携研究~
	長澤 佳子、和泉 凧紗、齋藤 菜々子、 須藤 玉恵、中村 南那 (藤女子大学人間生活学科)	
	和田 雅子(藤女子大学)	
野田 英樹	清水勸業(株)	「ゆらぎ照明開発」 インテリアや札幌工芸品としてゆらぐ光を活かすデザインを札幌市立大学と研究しています。
	中川 絵理※代表(清水勸業(株))	
	三谷 篤史(札幌市立大学)	
櫻井 恵介	Letara(株)	プラスチックを燃料にした宇宙用エンジンの開発 人類の活動圏を遠くの宇宙に広げるために必要なエンジン
	平井 翔大※代表(Letara(株))	
竹内 康	(株)ライオン	“洗濯の困った”を解決するオーダーメイド洗剤の販売 -洗剤×就労支援のビジネスモデルで少量多品種を解決-

【北洋銀行】

発表者	発表者所属 / 共同研究者	研究課題
高橋 智之	地域産業支援部	道産食品ECモール「collesho」が新規オープン 隠れたこだわりの逸品「コレっしょ!北のいいもの」が集結

【北海道医療福祉産業研究会】

発表者	発表者所属 / 共同研究者	研究課題
七戸 治	北海道医療福祉産業研究会	医療福祉分野の器具・ICTの開発を産学官で支援。 会員の多種多様な技術を活かして製品開発を進めます。



II

展示会等の参加

1. 「北洋銀行ものづくりサステナフェア 2023」
(2023.7.20 アクセスサッポロ)
2. 第 37 回 北海道 技術・ビジネス交流会「ビジネス EXPO」
(2023.11.9～11.10 アクセスサッポロ)

「北洋銀行ものづくりサステナフェア 2023」

2023.7.20 アクセスサッポロ

主催: 北洋銀行

Title 「きほんのきのかい」及び地域産学連携事業の紹介

Author 細谷 多聞 デザイン学部 教授

小宮 加容子 デザイン学部 准教授

Report 北海道のものづくり産業の振興を図ることを目的に「北洋銀行ものづくりサステナフェア 2023」が 7 月 20 日 (木)、札幌市白石区のアクセスサッポロで開催されました。

本フェアは北洋銀行主催の展示型商談会であり、2019 年まで開催していた「北洋銀行ものづくりテクノフェア」をリニューアルしたものです。4 年振りの開催となる今回は、「サステナビリティ(持続性)」、「道内外の広域連携による地域経済の活性化」、「ものづくり人材の育成」という三点の視点から持続可能な社会の創造を目指し、ものづくり、環境/SDGs、IT/DX、知的財産、スタートアップ等の幅広い分野から 136 の企業・団体の出展がありました。また、約 4,000 名の来場があり、商談の成約や販路拡大につながる情報交換が活発に行われました。

(※一部大会主催者報告から抜粋)

本学からは、デザイン学部の補習授業「きほんのきのかい」の活動について、アマビエ像(段ボール素材・全高 2400mm)及び、しあわせ来やつ!?と(招き猫・毛糸素材)の実物を展示し、細谷教授と小宮准教授から訪問者へ丁寧な説明を行いました。また、医学初学者のための教材開発(2022 年度地域産学連携協力依頼)に関する取り組みを紹介しました。

ものづくりフェアという性質から、全体的にハードウェアの出展が多い中、本学は地域活性化を企図したソフトな展示で注目され、訪問者に興味を持っていただき、本学の新たな発見をして頂けたと思われま

Image





「きほんのきのかい」

札幌市立大学デザイン学部では補習授業として「きほんのきのかい」を続けています。
 「きほんのきのかい」は正規の授業ではなく、学生の課外活動としても位置付けていません。補習授業と呼ぶのは、教員発信の研究・教育活動に、参加する意義を感じることでできる向学心の強い学生の活動機会を創出することが理由です。発足のきっかけはCovid-19の蔓延で、大学設備を使った制作実習の機会が提供できず、教員が実習課題を材料や道具と一緒に学生の自宅に郵送しながら始めた補習授業でした。こうした授業を続けていく内に、学外からのデザイン依頼を課題として、教員が指導しながら制作するといった、現在の活動スタイルが出来上がりました。

■アマビエ像の制作 (2020年11月)



完成したアマビエ像は全高2400mmの巨大な造形物であり、身体の鱗、髪の毛、顔面、ひれなど、場所によって段ボール素材の用い方を変えています。各々の受講生は、それらの表現がどのような技法で制作されるかを学ぶとともに、加工を繰り返さなければならなかったため、技能は高レベルで習得されました。協働してひとつの制作物を作る機会を通じて、制作物のクオリティを一定に保つといった経験も得られました。

■けいとでおえかき → しあわせ来ちゃっ!?! と (2022年6~11月)



北海道新幹線の延伸計画に伴い2022年9月に閉館した、札幌駅の商業施設 Paseo の空きテナントスペースで「けいとでおえかき」を実施しました。空き店舗スペースの有効活用といった地域課題に取り組むと同時に、コトづくりや人の行動のデザイン、体験のデザイン、空間演出といったさまざまな学びを得る機会となりました。この後、市民参加者が毛糸で紡いだ絵は、招き猫に姿を変えて、再度、市民や大学を訪れるみなさんの目を楽しませています。誰にとっても楽しいあそびを考案・実践した後で新たな制作物に展開する新しい体験のデザインを提案できました。

■東洋医学初学者のための教材開発 (2022年9月~2023年3月)

東洋医学では、陰陽図や五行相生関係の図、経絡図といったさまざまな図を通して概念を学びますが、伝統的であったり、専門性の強い図解は初学者にとって敷居の高いものがあります。「きほんのきのかい」では、札幌の治療院「整骨・鍼灸・漢方・柔道 福」の院長 堀口恭弘氏からの依頼を受け、これらの図をデザイン学生の感性で再解釈し、教材化することに取り組みました。



※展示パネルの一部を掲載

第 37 回 北海道 技術・ビジネス交流会「ビジネスEXPO」

2023.11.9～11.10 アクセスサッポロ

主催：北海道 技術・ビジネス交流会実行委員会(事務局 ノーステック財団)
[北海道経済産業局、北海道、札幌市、北海道経済連合会 他]

Title 木製遊具「ユールボード」のプロジェクトを紹介

Author 三谷 篤史
デザイン学部 教授

Report 北海道の経済活性化や産業振興のため、新たなビジネスチャンスの創出を目指した北海道最大の展示会“ビジネスEXPO「第 37 回北海道技術・ビジネス交流会」”が 11 月 9 日(木)・10 日(金)の 2 日間、札幌市白石区のアクセスサッポロで開催されました。

今年度は“【進化と革新】10倍速の変化時代へ～動き出す北海道～”をテーマに開催し、企業・団体・大学・研究機関から合計 302 件の出展、規模は 292 小間(ブース)となりました。例年の 5 ゾーンに加え、開催テーマに沿って「未来創造ゾーン」を昨年に引き続き設置し、今、北海道で注目の「半導体産業」の紹介や、SDGs の達成や脱炭素社会の実現など、未来に向けた技術や製品を紹介し、大いに注目を集めました。また、ロボットアームなど、省力化や DX 促進に繋がる最先端機器を紹介する「先端技術ゾーン」等、時代の潮流に合う展示内容は、北海道の新たな可能性を感じることができました。総来場者数は 22,942 名でした。

(※大会主催者報告より実績を抜粋)

本学からはデザイン学部三谷教授が、(株)キボロコ様と共同開発中のヨーロッパ発祥のチーズボードを元にした、知識も言葉も難しい操作も必要なく、シンプルながら奥深い面白さがある木製遊具「ユールボード」を紹介しました。展示について、質問に答えながら研究概要や展示の説明を行った結果、来場者アンケートからは「学生が地域と取り組んでいることが分かる展示となっていて良かった。」「ゲーム感覚で防災について学べるものがあった。面白かった。」「制作物を市販化してほしい。」などのコメントをいただきました。地域貢献に興味がある企業をはじめ、幅広い年齢層の方と交流し、「ユールボード」のプロジェクトについて知っていただくことができました。

また、本会場には企業見学・就職支援のために道内大学・高専・工業高校生 1,200 名を招待しており、多くの学生が来場しました。本学のブースも学生の訪問を歓迎し、展示を通じて大学の学びの一端を紹介しました。

Image



「ビジネス EXPO」本学展示ブース風景



開発中のユールボードを地域のイベントに持ち込んでみました。

もくもくマーケット in 銭函<株式会社新宮商工主催>



みな杜マルシェ<市立札幌みなみの杜高等支援学校主催>



札幌市立大学 地域産学連携協力依頼事業 -産学連携のご相談はお気軽に！！-



札幌市立大学 地域連携課

SCU※産学連携窓口

産学連携・地域連携にさらに積極的に取り組むため「SCU産学連携相談窓口」を開設しています。「研究・活動の内容を知りたい」「札幌市立大学との連携方法について知りたい」など、地域・産学連携に関する疑問・質問・ご要望がありましたらお気軽にご相談ください。ご来訪の際はあらかじめ電話またはメールにてご連絡をお願いいたします。
※SCU:SAPPORO CITY UNIVERSITY

本学の特長(DNA)

本学はD(デザイン)とN(看護)の両学部を併せ持つ大学です。その特長を生かし、両学問が連携・共同して「教育・研究・地域貢献」を行っています。さらに、この両分野の連携をAI研究が下支えし、本学の異分野連携によってこそ可能になる、人々の暮らしや社会に新たな価値を創造する活動を実践しています。この連携をDNA (design × Nursing × AI) と呼称しています。

協力依頼事業 産学連携事例

●就航20周年「叶える翼」ステッカー 株式会社AIR DO

受賞作品

今年就航20周年を迎える株式会社AIRDO様から依頼を受け、本学デザイン学部生とAIRDO社員が協働して「叶える翼」ステッカーのデザイン制作を行いました。AIRDO社員とともにデザインワークショップを行い、「叶える翼」に込めた思いや社員の方々の機材に対する思いからコンセプトをまとめ、それらをもとに学生がデザイン制作を行いました。提案されたデザイン案の中から四季にそって4点が選ばれ、「叶える翼」ステッカーとして8月から順次機内等で配布される予定です。

●創造都市さっぽろWAON新デザイン イオン北海道株式会社

『「札幌市」や「文化芸術」が感じられ、札幌市民に広く親しまれるデザイン』をコンセプトに創造都市さっぽろWAON新デザイン提案のデザインコンペが実施されました。札幌市立大学デザイン学部学生32名から33作品の応募があり、学内選考・イオン北海道の従業員による投票を経て、最優秀賞1点、優秀賞3点が選ばれ、創造都市さっぽろWAONカード新デザインとして採用されることとなりました。

●ゴム素材の北海道土産おじさんハコの開発 株式会社ミツウマ

株式会社ミツウマ様より依頼いただき、ゴムを素材とする北海道土産の企画提案と取材を行いました。本学学生3名と株式会社アドバンス・フーズ様、株式会社ミツウマ様の担当者で打ち合わせを行い、道内町村の名物おじさんを対象とし、おじさんハコの制作が決定しました。現在製品化に向け、検討を継続しています。

●「さっぽろ受動喫煙防止宣言」ロゴマーク募集 札幌市保健福祉局

札幌市では、各団体や事業者及び行政が連携協力して受動喫煙防止を市民運動として広める「さっぽろ受動喫煙防止宣言」を表明しています。この宣言のリーフレットやPRグッズに使用することを目的とするロゴマークの作成依頼をいただきました。学内コンペを開催し、17作品の応募があった中で、採用作品1点、優秀作品2点が選出されました。

●ご相談はお気軽に

本学は、人間重視と地域社会への貢献という教育・研究の理念のもと、地域に根ざした大学として地域支援活動に積極的に取り組んでいます。地域の皆様や様々な組織の方々のご相談を積極的にお受けしておりますので、なにかご相談事がありましたら、下記までお気軽にご相談ください。

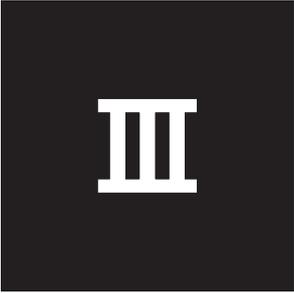
札幌市立大学事務局
地域連携課 地域連携担当
〒005-0864
札幌市南区芸術の森1丁目
TEL:011-592-2348
FAX:011-592-2369
E-mail: oro@sou.ac.jp



人と向きあう、未来を創る。



SAPPORO CITY UNIVERSITY



III

地域連携・地域貢献活動

1. 公開講座開催
2. 受託研究
3. 共同研究
4. 地域貢献(地域産学連携協力依頼)
5. 研究支援地域連携センターのご案内

1. 公開講座開催

大学企画 公開講座

講座名	月日	演題名	講師
2023年ELNEC-Jコアカリキュラム看護師教育プログラム(二日間連続開催)	第1日目 2023/06/10(土) 第2日目 2023/06/11(日)	2023年ELNEC-Jコアカリキュラム看護師教育プログラム	川村 三希子(看護学部・教授) 小島 悦子(札幌保健医療大学保健医療学部・教授) 平山 さおり(KKR札幌医療センター看護部・看護師長) 門脇 睦子(医療法人せせらぎ訪問看護ステーションそよ風 所長) 佐藤 明美(札幌医科大学附属病院医療連携福祉センターがん看護相談) 北山 美希(ファミリー・ホスピス大口ハウス)
NCPR(新生児蘇生法)専門コース(Aコース)	2023/8/5(土)	NCPR(新生児蘇生法) 専門コース(Aコース)	小林 正樹(札幌東豊病院・小児科医師) 荒木 奈緒(看護学部・教授) 岡 園代(看護学部・講師)
NCPR(新生児蘇生法) スキルアップコース(Sコース)	2024/3/2(土)	NCPR(新生児蘇生法) スキルアップコース(Sコース)	荒木 奈緒(看護学部・教授) 岡 園代(看護学部・講師) 大友 舞(看護学部・助教)
まちの健康応援室ミニ出張講座	2023/5/8(月)	産後の身体の動かし方(産後ケア)について	久保田 祥子(看護学部・助教)
	2023/6/14(水)	熱中症とスキンケアについて	大友 舞(看護学部・助教)
	2023/9/5(火)	おっぱい・ミルク・卒乳について	石引 かずみ(看護学部・講師)
	2023/11/6(月)	子どもの感染症について	牧田 靖子(看護学部・講師)
	2024/1/29(月)	子どものケガ(鼻血、切り傷、打撲など)の応急処置や手当について	牧田 靖子(看護学部・講師)
メカトロ教室「走れ！ロボットカー！」	2023/6/24(土)	サイエンジャー科学教室 メカトロ教室「走れ！ロボットカー！」	三谷 篤史(デザイン学部・教授)
厳冬期の地震災害への備えはできていますか？ 「寒冷・雪環境下の災害看護活動で知っておくべきリスクと備え」	2023/12/2(土)	厳冬期の地震災害への備えはできていますか？ 「寒冷・雪環境下の災害看護活動で知っておくべきリスクと備え」	鬼塚 美玲(看護学部・講師、元陸上自衛隊看護官) 尾立 篤子(東邦大学健康科学部看護学科・教授、元陸上自衛隊看護官)
ぶかぶか・せいめいたい	2023/7/29(土)	ぶかぶか・せいめいたい	細谷 多聞(デザイン学部・教授) 小宮 加容子(デザイン学部・准教授)
大学院で学ぶとは～日々の看護活動から生まれた Question を研究につなげよう	2023/10/7(土)	1)看護の疑問を研究につなぐプロセス 2)看護の疑問を研究につなぐ過程で得たこと 3)研究力と実践力を高める経験から得たこと 4)研究活動から看護に還元したしたこと 5)大学院で学ぶとは？ 6)フリーディスカッション	貝谷 敏子(看護学部・教授) 岩崎 美樹(大学院看護学研究科) 山北 紗静(大学院看護学研究科) 尾立 斗志世(大学院看護学研究科博士前期課程修了) 菊地 ひろみ(札幌市立大学看護学部・教授)

「研究の二刀流—隠れた専門性による新たなデザインの世界への誘い—第5弾」3話シリーズ	第1回 2023/10/21(土)	ギター音楽のデザイン#5 —幻の名曲の魅力と謎に迫る(続)—	中原 宏(札幌市立大学・名誉教授)
	第2回 2023/10/28(土)	蒸気機関車のデザイン「栄光の機関車 C62」	酒井 正幸(札幌市立大学・名誉教授)
	第3回 2024/2/3(土)	アイスホッケーから学ぶ建築環境デザイン	齊藤 雅也(デザイン学部・教授)
母と子のメンタルヘルスをめぐる課題 3回のリレー講演	第1回 2023/8/5(土)	マルチリトメント・虐待とトラウマインフォームドケア	守村 洋(看護学部・准教授)
	第2回 2023/9/9(土)	出生前診断に関する意思決定支援とメンタルヘルス	荒木 奈緒(看護学部・教授)
	第3回 2023/10/28(土)	母(親)と子のメンタルヘルスの課題に取り組む	中川原 由華 (NPO 法人 ソルウェイズ・看護師) 檜垣 知里(地域生活支援センターさっぽろ・ 精神保健福祉士) 田中 敦(レター・ポスト・フレンド 相談ネットワ ーク理事長)
マイコンレーサー講習会・北海道大会	2023/10/1(日)	マイコンレーサー「初級講習会」	三谷 篤史(デザイン学部・教授)
	2023/11/5(日)	マイコンレーサー「テクニカル講習会」	三谷 篤史(デザイン学部・教授)
	2023/11/19(日)	第7回マイコンレーサー北海道大会	三谷 篤史(デザイン学部・教授)
「デザイン夜学校 2023 ～SSTA から SCU への建築デザインの継承～」 全3回	2023/9/15(金)	「建築をめざすこと」	奥山 健二(元札幌市立高等専門学校教務主 事、名古屋市立大学名誉教授、福山市立大学 名誉教授)
	2023/10/20(金)	「建築を楽しむこと」	八代 克彦(元札幌市立高等専門学校助教 授、ものづくり大学名誉教授・特別客員教授)
	2023/12/8(金)	「建築を考えること」	那須 聖(元札幌市立高等専門学校講師、元札 幌市立大学准教授、東京工業大学環境・社会 理工学院准教授)
Huddling Fashion Show	2023/12/16(土)	Huddling Fashion Show	石井 雅博(デザイン学部・教授) 並木 翔太郎(デザイン学部・准教授)
お金と仕事で考えるライフデザインワークショップ “発見！体験！未来のワタシ！”	2024/1/20(土)	[お金と仕事で考えるライフデザインワークショップ “発見！体験！未来のワタシ！”]	石井 雅博(デザイン学部・教授) 並木 翔太郎(デザイン学部・准教授) 矢久保 空遥(デザイン学部・助教) 守村 洋(看護学部・准教授) 黒田 紀子(看護学部・講師) 大友 舞(看護学部・助教)
たてものの健康診断 ～建築版 家庭の医学 マンション・ビル編～	2024/1/12(金)	たてものの健康診断 ～建築版 家庭の医学 マンション・ビル編～	西川 忠(デザイン学部・教授) 関 信之介(大学院デザイン研究科・博士前期 課程1年)
デザイン思考入門	2024/3/12(火)	デザイン思考入門	石井 雅博(デザイン学部・教授)
はじめてのプログラミング —Python で学ぶ—	2024/3/13(水)	はじめてのプログラミング —Python で学ぶ—	石井 雅博(デザイン学部・教授)

ちえりあとの共催講座：「さっぽろ市民カレッジ」連携講座

講座名	月日	演題名	講師
さっぽろ市民カレッジ講座 2023 春・夏期 「小樽の歴史的建造物をたどる」	第1回 6/13(火) 第2回 6/20(火)	小樽の歴史的建造物をたどる	羽深 久夫(札幌市立大学・名誉教授)
さっぽろ市民カレッジ講座 2023 秋期 「さっぽろの遊郭史～花街と寺町～」	第1回 9/7(木) 第2回 9/14(木)	さっぽろの遊郭史～花街と寺町～	羽深 久夫(札幌市立大学・名誉教授) 石川 圭子(民衆史研究家)

北海道立総合研究機構との共催講座：「知活(ちいき)ゼミナール」

講座名	月日	演題名	講師
知活(ちいき)ゼミナール 2023 「どうする？環境変化」 【YouTube 配信】	2023/12/1(金) ～ 2024/2/29(木)	講義1：日々変わりゆく環境変化を感じるためにアートができること 講義2：気候変動で北海道の冬はどうなる？どうする？	講義1 石田 勝也(デザイン学部 講師) 講義2 鈴木 啓明(エネルギー・環境・地質研究所 環境保全部 主査)

2. 受託研究

No.	研究名称	委託者	期間	研究代表者・共同研究者
1	重症患者における効果的な口腔ケア解明	アルケア株式会社	2022年11月7日 ～2024年12月30日	卯野木 健(看護学部 教授)
2	キウシト湿原保全基礎研究	登別市	2023年4月14日 ～2024年3月4日	矢部 和夫(専門研究員)
3	動物福祉に配慮した夏季の屋外放飼場のデザイン研究	札幌市	2023年7月18日 ～2024年2月28日	坪内 健(デザイン学部 助教) 吉田 彩乃(デザイン学部 助教) 齊藤 雅也(デザイン学部 教授)
4	厚真町胆振東部地震慰霊・伝承施設に関する調査研究 委託業務	厚真町	2023年8月9日 ～2024年3月22日	羽深 久夫(専門研究員) 椎野 亜紀夫(デザイン学部 教授) 金子 晋也(デザイン学部 准教授)
5	21世紀・アイヌ文化伝承の森整備推進事業の内アイヌ文 化振興に向けた観光学等の学術的・多角的観点からの 調査研究	国立大学法人北海道大学 (平取町再委託)	2023年7月11日 ～2024年3月29日	森 朋子(デザイン学部 准教授)
6	平岡公園人工湿地・池・植物生育等環境調査	公益財団法人 札幌市公園緑化協会	2023年7月11日 ～2024年1月17日	矢部 和夫(専門研究員)
7	動物福祉と利用者の満足度を高めるメディア展開の研究	札幌市	2023年8月16日 ～2024年2月28日	石田 勝也(デザイン学部 講師) 須之内 元洋(デザイン学部 講師) 並木 翔太郎(デザイン学部 准教授)
8	厳冬期災害における避難支援および避難所環境に関する研究	札幌市危機管理局	2023年12月25日 ～2024年3月31日	鬼塚 美玲(看護学部 講師) 市戸 優人(看護学部 助教) 齊藤 雅也(デザイン学部 教授) 椎野 亜紀夫(デザイン学部 教授) 小林 重人(デザイン学部 准教授)

3. 共同研究

No.	研究名称	申込者	期間	本学研究担当者
1	構造物に負の影響を与えない凍結防止剤の研究(その3)	中日本高速道路株式会社	2020年2月25日 ～2023年9月30日	高橋 尚人(AITセンター 教授)
2	女性ホルモンリズムが心理状態や肌にも与える影響の解明	株式会社資生堂	2022年6月10日 ～2023年5月31日	松浦 和代(看護学部 教授) 石井 雅博(デザイン学部 教授) 守村 洋(看護学部 准教授) 黒田 紀子(看護学部 講師) 大友 舞(看護学部 助教)
3	原子力施設の廃止措置におけるジェネラティビティに関する測定及び評価における基礎研究	国立研究開発法人 日本原子力研究開発機構	2023年4月3日 ～2024年3月22日	小林 重人(デザイン学部 准教授)

4	情報価値の高い動画コンテンツの研究・映像サンプルの実験計画策定と感性評価	三菱電機株式会社 統合デザイン研究所	2023年4月27日 ～2024年3月31日	柿山 浩一郎(デザイン学部 教授)
5	歴史的建築物を活かした中心市街地活性化に関する研究	浦臼町	2023年4月25日 ～2024年3月31日	西川 忠(デザイン学部 教授)
6	小慢児童等の就職準備に資する(仮称)マイトリセツシーの作成	札幌市保健所	2023年6月9日 ～2024年3月31日	細谷 多聞(デザイン学部 教授) 小宮 加容子(デザイン学部 准教授)
7	深層学習を用いたコンクリートの健全度判定に関する研究	株式会社メイセイ・エンジニアリング	2022年7月13日 ～2024年3月31日	高橋 尚人(AITセンター 教授)
8	設備装置のユーザビリティ向上の研究	東京エレクトロン株式会社 実践女子学園	2023年12月4日 ～2024年3月31日	柿山 浩一郎(デザイン学部 教授)
9	ビッグデータ分析とAI解析を用いた持続可能な救急業務体制の構築に関する基礎研究	札幌市消防局	2023年10月10日 ～2024年3月29日	高橋 尚人(AITセンター 教授)
10	コネクテッドカーデータによる冬期路面状況評価に関する研究	トヨタ自動車株式会社	2023年12月27日 ～2024年3月29日	高橋 尚人(AITセンター 教授)
11	深層学習を用いた熊対策の高度化に関する研究	株式会社 アスカム	2024年1月15日 ～2024年2月29日	高橋 尚人(AITセンター 教授)

4. 地域貢献(地域産学連携協力依頼)

地域連携研究センターへの協力依頼一覧(2023年度)

No	依頼名称	依頼元	対応
1	非営利地域団体によるフリースクール運営事業	フリースクール「うめむすび」 代表 常本 幸枝	本田 光(看護学部 准教授) 近藤 圭子(看護学部 助教) 片山 めぐみ(デザイン学部 准教授)
2	AOAO SAPPORO と市民のコミュニケーション活動である「まちなか水族館」のWebメディアの実施	株式会社青々 代表取締役 山内 將生	福田 大年(デザイン学部 講師) 若林 尚樹(デザイン学部 教授)
3	広報さっぽろ南区版表紙デザイン事業	札幌市南区 区長 奥村 俊文	大淵 一博(デザイン学部 講師)
4	円山動物園「こども動物園」の魅力UPプロジェクト 「モルモットが快適に過せる空間デザインコンペ」のポスターデザイン	円山動物園「こども動物園」の魅力UPプロジェクト 札幌市円山動物園飼育展示・診療担当課 飼育展示一担当係長 坪松 耕太	若林 尚樹(デザイン学部 教授)

5	冬みち便りデザインの制作事業	札幌市南区 区長 奥村 俊文	大島 卓(デザイン学部 准教授)
6	洋上風力発電事業	コスモエコパワー株式会社	大淵 一博(デザイン学部 講師)
7	エゾシカ由来素材を用いたショーケースデザインとワークショップ企画・運営	株式会社北海道えぞ鹿ファクトリー 代表取締役 呉 奇	矢久保 空遥(デザイン学部 助教)
8	札幌市公文書館ロゴマークの募集	札幌市総務局行政部 行政部長 城戸崎 泰宏	金子 晋也(デザイン学部 准教授)
9	札幌版ウェルネスに関するロゴマーク等の制作	札幌市保健福祉局保健所長	細谷 多聞(デザイン学部 教授) 小宮 加容子(デザイン学部 准教授)
10	「芸術・創造的な活動」及び「遊び」を通じたウェルネス推進イベントの実施	札幌市保健福祉局保健所長	細谷 多聞(デザイン学部 教授) 小宮 加容子(デザイン学部 准教授)
11	第6回いきいき健康塾	幌加内町 町長 細川 雅弘	原井 美佳(看護学部 准教授) 近藤 圭子(看護学部 助教) 齊藤 雅也(デザイン学部 教授) 大淵 一博(デザイン学部 講師)
12	ショップバッグデザインコンペ	株式会社 土屋ホームトピア 代表取締役 菊地 英也	矢久保 空遥(デザイン学部 助教)
13	社会福祉法人恵正会 ロゴマークデザイン	社会福祉法人恵正会 理事長 鈴木 文人	若林 尚樹(デザイン学部 教授)
14	札幌市民憲章策定60周年記念事業に向けたメディア制作	札幌市民憲章推進会議	坪内 健(デザイン学部 助教)
15	札幌市グリーティングカード制作事業	札幌市総務局 国際部長 久道 義明	大淵 一博(デザイン学部 講師)
16	さっぽろオータムフェスト2023 4丁目会場 【SAPPORO Culture&Art】	株式会社電通北海道 代表取締役社長執行役員 沖津 充男	横溝 賢(デザイン学部 准教授)
17	令和5年度 北海道 消費者行政強化事業	公益社団法人 全国消費生活相談員協会 理事長 増田 悦子	大淵 一博(デザイン学部 講師)
18	もしも北海道	もしも北海道 大橋 二三子	三谷 篤史(デザイン学部 教授) 村松 真澄(看護学部 准教授)
19	芸術の森小学校 工作ワークショップ事業	札幌市立芸術の森小学校 首藤 功二	若林 尚樹(デザイン学部 教授)

20	Atsumalovers 謝辞広告制作	厚真町 町長 宮坂 尚市朗	福田 大年(デザイン学部 講師)
21	第 29 回 芸術の森地区文化祭(ポスター制作)	芸術の森地区連合会 会長 下総 仁志	細谷 多聞(デザイン学部 教授) 小宮 加容子(デザイン学部 准教授)
22	第 29 回 芸術の森地区文化祭(作品展示)	芸術の森地区連合会 会長 下総 仁志	細谷 多聞(デザイン学部 教授) 小宮 加容子(デザイン学部 准教授)
23	マチトモパートナー企業認定制度の認定マーク制作	札幌市市民文化局市民自治推進室長	矢久保 空遥(デザイン学部 助教)
24	市立札幌病院看護部のキャラクターデザイン制作	札幌市病院局 市立札幌病院	柿山 浩一郎(デザイン学部 教授)
25	総合学習、教科科目のためのワークキットの教材開発と、それを活用したワークショップ型授業の実施	札幌市藻岩南小学校 校長 近 香奈子	若林 尚樹(デザイン学部 教授)
26	冬の「雪あかり」イベント PR チラシの制作事業	札幌市南区 区長 奥村 俊文	大淵 一博(デザイン学部 講師)
27	札幌・ポर्टランド姉妹都市提携 65 周年記念ロゴマーク制作事業	札幌市総務局 国際部長 久道 義明	矢久保 空遥(デザイン学部 助教)
28	札幌市立義務教育学校定山溪学園 校章デザイン募集事業	札幌市立定山溪小学校 校長 石川 直道	細谷 多聞(デザイン学部 教授) 小宮 加容子(デザイン学部 准教授)
29	矯正医官の仕事紹介に係る絵本デザイン事業	法務省札幌矯正管区 第一部長 小野寺 巧	福田 大年(デザイン学部 講師)
30	「第 29 回日本看護管理学会学術集会」ポスターデザイン制作事業	第 29 回日本看護管理学会学術集会 学術集会長 田中 いずみ	大淵 一博(デザイン学部 講師)
31	南区の魅力をPRする啓発品制作事業 (マフラータオル、ボトル)	札幌市南区 区長 奥村 俊文	大淵 一博(デザイン学部 講師)
32	南区の魅力をPRする啓発品制作事業 (ハードカバーノート)	札幌市南区 区長 奥村 俊文	大淵 一博(デザイン学部 講師)
33	「ボン・ヴォヤージュ！アートの森へ旅にしよう」	株式会社 MIMOseele	藤沢 礼央(デザイン学部 講師)

1. 非営利地域団体によるフリースクール運営事業

本事業は2022年9月からの継続支援事業として実施しました。2023年4月からは、本学の授業科目である地域プロジェクトの1つとして参加学生を募って活動を行い、子ども達の学習支援や創作活動に従事しました。2023年6月には、正式に「うめむすび」として開所しました。

この地域型フリースクールは、子ども達にとっては、安心できる居場所であり、またちょっとお姉さんである大学生との出会いの機会となり、「将来はデザイナーになりたい」などと将来の夢を描ける場所にもなりました。参加した大学生にとっても、学校に通えない子ども達の実情を知り、またその成長と将来を真剣に考え、日々の活動で自分たちができることを試行錯誤する経験を得ることもなりました。



2. AOA SAPPORO と市民のコミュニケーション活動である「まちなか水族館」の Web メディアの実施

2023年夏に開業した都市型水族館「AOA SAPPORO」と市民とのコミュニケーション活動として、街中の風景を水生生物に見立てた写真を撮影する「まちなか生物探検隊」を2023年11月18日に AOA SAPPORO でデザイン学部生7名と AOA SAPPORO が協働して企画・実施しました。

当日は参加した2名の小学生と学生が AOA SAPPORO に隣接するアーケード街「狸小路」で、風景に潜む水生生物を見立てる探検をし、2時間程度の探検で100枚以上のまちなか生物が撮影できました。



3. 広報さっぽろ南区版表紙デザイン事業

南区の魅力を PR するため、「デザイン総合実習Ⅰ・南区役所のブランディングとデザイン」で制作した「南区をイメージしたロゴマーク」を使い、広報さっぽろ南区版令和5年5月号～令和6年4月号の表紙ページ（ヘッダ部分）を学生がデザインしました。



4. 円山動物園「こども動物園」の魅力UPプロジェクト「モルモットが快適に過せる空間デザインコンペ」のポスターデザイン

札幌市円山動物園と北海道建築士会札幌支部が協働で、環境教育の推進を目的とし、モルモットの環境エンリッチメントを題材にデザインコンペを実施しました。その事業を各学校等に周知するためのポスターデザインの作成を行いました。デザイン制作は参加を希望する8名の学生に、ポスターデザインの原案を提案してもらい、その中から札幌市円山動物園と北海道建築士会札幌支部の理事会で選んだ、高橋七海（デザイン学部人間情報デザインコース3年）さんのデザイン案が採用されました。

ポスターは今後、円山動物園、および北海道建築士会札幌支部のWebサイトなどで公開されます。



6. 洋上風力発電事業

コスモエコパワー株式会社が北海道の日本海側で実施する洋上発電事業に関して、事業概要ならびに北海道・アースコンシャスをイメージしたロールアップバナースタンドのデザイン制作を行いました。

本学デザイン学部2～4年生に「1グループ3名」という条件で参加学生を募集したところ、3グループ9名の応募がありました。5月にオンラインでガイダンスを実施し、6月に3グループから4点のデザインが提出されました。その後、オンラインでプレゼンテーションを実施し、3年生グループの作品が採用されました。

採用されたデザインは、2023年7月20日に開催されたイベントで掲出され、今後も事業のPRに活用される予定です。



8. 札幌市公文書館ロゴマークの募集

札幌市公文書館が令和5年度に公文書館開館10周年を迎えるにあたり、認知度向上及び市民にとってより親しみやすい施設づくりの一環として、恒久的に使用するロゴマーク（シンボルマークと、ロゴタイプが一体となったもの）を募集しました。

ロゴマークの学内コンペティションについて、5月にオンラインで募集説明会を開催し、13名が参加しました。7月の募集締め切りには7名の作品が提出されました。各作品に対するコメントを加え、公文書館へ提出したところ、上位2名が最優秀賞と優秀賞として選出され、最優秀賞は当館のロゴマークとして採用され、各媒体で使用されることとなりました。



最優秀賞：伊藤 冠介さん

優秀賞：喜多山 翔さん

(いずれも制作当時、大学院デザイン研究科)

9. 札幌版ウェルネスに関するロゴマーク等の制作

子どもから大人まで幅広い世代を対象とした楽しみながら身体を動かすきっかけづくりと、活動を通じて大学生が運動習慣等の重要性に気づき、将来にわたって実践するきっかけづくりを目的に、依頼団体より、ウェルネスプロジェクトのロゴマーク、アプリのアイコンのデザインの依頼があり、学生1名が取り組みました。ロゴマークおよびアプリアイコンとも5点ずつ提案をし、各1点が選定されました。



10. 「芸術・創造的な活動」及び「遊び」を通じたウェルネス推進イベントの実施

子どもから大人まで幅広い世代を対象とした楽しみながら身体を動かすきっかけづくりと、イベントの企画・運営を通じて大学生が運動習慣等の重要性に気づき、将来にわたって実践するきっかけづくりを目的に、依頼団体と連携し、2023年7月29日（土）に、市民交流プラザ SCARTS モール B、C にてあそびイベントを実施しました。当日は2つのあそび場を設け、各々130人程度の参加者がいました。



11. 第6回いきいき健康塾

いきいき健康塾とは、2016年度より幌加内町の保健福祉課と研究的・継続的に実施してきた高齢者向け健康啓発イベントです。本学は事業実施における助言および当日の運営補助者として、教員、学生が協力しました。

教員は、プログラムの検討、会場の環境保全（感染症・熱中症予防対策）、体組成測定と結果出力、全体運営について連携・協力し、学生は、運営全般における補助業務を担当しました（参加者受付、体組成値測定補助、測定値の入力作業、誘導、ワークショップ参加・運営）。



体組成の測定結果を印刷し、いきいき健康手帳に貼りました。



ワークショップでは、工夫をこらしたオリジナルうちわを作りました。

13. 社会福祉法人恵正会 ロゴマークデザイン

地域連携の一環として、札幌市立大学と社会福祉法人が連携したデザインコンペを実施しました。デザインコンペに参加した学生8名から10種類のデザイン案の提案があり、施設の利用者・職員の投票をもとに最優秀賞、優秀賞が選出されました。最優秀賞として法人のシンボルマークに選ばれたのは、デザイン学部人間情報デザインコース4年の大村円菜さんの「やさしい暖かさ」を表現した作品です。また、優秀賞として選ばれた2つの作品は、恵正会の運営するパン工房や日用品を制作する工房のシンボルマークとして採用されることとなりました。選考には就労事業所の利用者も参加し、自分たちの製品に付けるブランドロゴを選ぶという貴重な経験をすることができたと喜びの声が上がっていました。



最優秀賞



優秀賞



14. 札幌市民憲章策定60周年記念事業に向けたメディア作成

「札幌市民憲章」は昭和38年（1963年）に制定され、例年、市民憲章の精神を生かし実践活動を積極的に行っている団体・個人を市民憲章実践優良者として表彰するなど様々な活動を展開しています。2023年度に60周年を迎えるにあたり、本学デザイン学部生が札幌市と協働してロゴマークを制作しました。また、今後の周知で活用されるポスターやリーフレット、インスタグラムで公開する実践優良者へのインタビュー動画も制作しました。



制作:近藤 花さん、村元 夏希さん(デザイン学部人間空間デザインコース4年)

15. 札幌市グリーティングカード制作事業

札幌市長名で国内外に送付するグリーティングカードをデザインする事業において、学内説明会を経て、デザイン学部の学生から18作品が提出されました。

2023年10月19日に、札幌市総務局国際部職員、国際交流員の方々による審査会が行われ、多田遥さん（デザイン学部人間情報デザインコース3年）の作品が採用となりました。

カードには秋元市長、石川副市長、町田副市長の署名を入れ、12月上旬にドイツ・ミュンヘンなど海外の姉妹都市（計155カ国）や在札外国公館などに向け約400通が発送されました。また、12月12日には札幌市役所にて記念品贈呈式が行われ、札幌市総務局国際部長より、多田さんへ記念品が贈呈されました。



17. 令和5年度 北海道 消費者行政強化事業

全国消費生活相談員協会が2023年10月7日（土）開催する、消費者の誰もが持つ『脆弱性』に着目したシンポジウムにおける、ポスター・フライヤーのデザイン制作事業です。

本学デザイン学部3年生4名が参加し、オンラインの打ち合わせを数回行ったり、メッセージツールでデザインについてのやり取りを行って、8月末にフライヤー、9月上旬にポスターのデザインが完成しました。また、10月7日のイベントに、デザイン制作を行った学生が「消費者」の立場で、プレゼンテーションとパネルディスカッションに参加しました。



19. 芸術の森小学校 工作ワークショップ事業

芸術の森小学校の「こんな学校にしたい！」は総合的な学習の時間での探究的な学習として実施しました。4年の図画工作において造形的なよさや面白さなどについて考え、豊かに発想や構想をしたりできるようにすることを目標とし、算数としては第4学年の立方体、直方体などの立体図形見取図・展開図と関連付け、校舎をモデルにしたペーパークラフトの組み立てと、こんな学校を作りたいという自分のイメージを表現する作品制作を通して体験的に学ぶ授業とし、4回の授業に参加しました。工作キットによって、切り抜く、折る、差し込むといった基本的な操作で、平面であった1枚の紙が立体形状になっていく、展開図の考え方やおもしろさの学びに気づくことを目標とした授業であり、参加した児童もそれを楽しんでいる様子でした。



20. Atsumalovers 謝辞広告制作

北海道胆振東部地震への道民の支援に対する謝辞広告「Atsumalovers」を、厚真町の町職員、厚真町在住の町民デザイナー、本学デザイン学部の福田大年が、2023年7月から8月の2ヶ月で協働的に制作しました。広告は被災5周年の9月6日の北海道新聞朝刊に掲載されました。

本プロジェクトのポイントは、デザイナーが被災地の想いを全て形にするのではなく、当事者と専門家がそれぞれの専門性を活かしながら、企画から制作、データ入稿までの制作過程を、全てオンラインで協働的に進めてきたことです。



22. 第29回 芸術の森地区文化祭（作品展示）

2023年11月4日（土）、5日（日）に、芸術の森文化センターにて芸術の森地区文化祭が開催されました。芸術の森地区連合会の依頼を受け、教員2名で文化祭に展示する作品を制作し、文化祭当日、会場に展示をしました。本活動で得た経験、制作した作品は、デザインの基礎を実践的に学ぶ場である「きほんのきのかい」の活動および、各教員の研究、担当科目等の参考資料として活かしていきます。



24. 市立札幌病院看護部のキャラクターデザイン制作



少子高齢社会の進展に伴い、医療需要の増大が予想される一方、看護師、助産師職の確保は難しさを増しつつあり、市立札幌病院では、市民の皆様への医療提供体制を維持するために、様々な取り組みを通じて医療技術者の確保に努めています。このような中、市立札幌病院看護部からの依頼を受け、札幌市立大学デザイン学部にて、主に看護師募集に用いることを想定したキャラクターデザインが行われました。

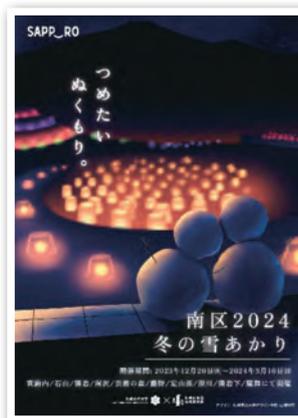
本試みではまず、札幌市立大学デザイン学部内で公募が行われ、市立札幌病院内の投票を経て、デザイン学部人間情報デザインコース2年の吉岡里紗さんがデザイナーとして選定されました。デザイナーとなった吉岡さんと市立病院の担当者間での6回にわたるデザインブラッシュアップを経て、「しまりん」が誕生しました。

今後の市立札幌病院で、「しまりん」が活躍してくれることを祈ります。

26. 冬の「雪あかり」イベントPRチラシの制作事業

南区内の各地区で開催される「雪あかり」イベントを広報するチラシを制作しました。チラシの元デザインには、デザイン総合実習Ⅰ（人間情報デザインコース）の授業課題（南区のブランディングデザイン）で提出された学生作品の中から、南区地域振興課の審査により、デザイン学部人間情報デザインコース2年の山端瑠花さんの作品が採用されました。

チラシは2,500枚印刷され、南区役所、南区内のまちづくりセンター、真駒内駅、地下歩行空間などで、配布されました。



27. 札幌・ポートランド姉妹都市提携 65 周年記念ロゴマーク制作事業

札幌市最初の姉妹都市であるアメリカ・ポートランド市について、2024年に提携65周年を迎えることから、各種の記念事業を実施するにあたり、統一的なロゴマークの制作依頼がありました。

ポートランド市内の芸術系大学「Pacific Northwest College of Art (PNCA)」と大学間連携協定を結んでいる本学デザイン学部の学生10名が制作した候補作品の中から、市公式ホームページ上での投票で上位となった3作品の中から、ポートランド市、ポートランドー札幌姉妹都市協会 (PSSCA)、札幌国際プラザ、札幌市の4者で協議を行った結果、デザイン学部人間情報デザインコース3年菅野絢果さんの作品が選ばれました。

「エレガントさ」を意識してデザイン。札幌とポートランドに共通する都市と自然の調和を意識し、札幌のモチーフには「カッコウ」、ポートランドのモチーフには「フード山」を採用。また、両市のモチーフに星をプラスして、「華やかさ」と両市の未来の「明るさ」をイメージ付けています。



29. 矯正医官の仕事紹介に係る絵本デザイン事業

刑務所などの矯正施設内で働く医師「矯正医官」の仕事を紹介する絵本を、札幌市立大学デザイン学部人間情報デザインコース3年の奈良与寧さん、成松咲良さん、附柳璃華さんの3名が、法務省札幌矯正管区と協働して試作しました。

絵本は、法務省札幌矯正管区がシナリオを作成し、学生メンバーが絵コンテ、イラスト作成、ページレイアウト、印刷データを作成しました。子ども視点で地域社会に貢献する矯正医官を紹介する内容となっています。



31. 南区の魅力をPRする啓発品制作事業

札幌市南区の魅力をPRする啓発品として、涼感マフラータオルと防災ボトルのデザインを制作しました。これら啓発品の元デザインには、デザイン総合実習Ⅰ（人間情報デザインコース）の授業課題（南区のブランディングデザイン）で提出された学生作品の中から、南区地域振興課の審査により、人間情報デザインコース2年の谷口暉麟さんの作品が採用されました。啓発品のサイズに合わせて、授業内で作成したロゴをデザインしました。

これらの啓発品は南区地域振興課が主催するイベント等で市民に無料配布されました。

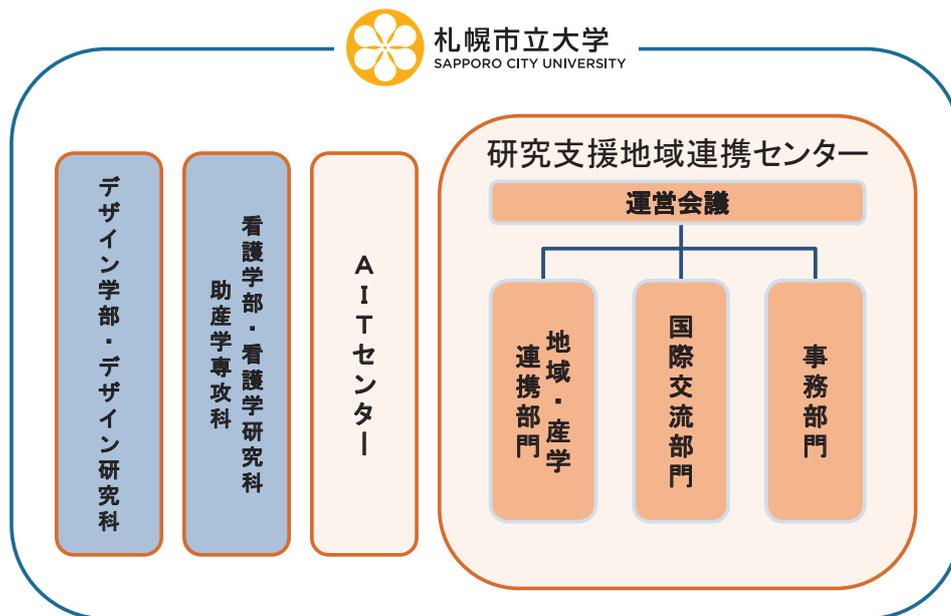


5. 研究支援地域連携センターのご案内

研究支援地域連携センター（旧名称：地域連携研究センター）は、平成 19 年 4 月本学における研究活動、地域貢献活動及び国内外のネットワークの形成推進を図ることを目的に設置されました。センターでは以下の業務を担当しています。

- 1) 研究費、研究成果の公表等研究活動の推進に関する事項
- 2) 共同研究・受託研究、研究に係る寄付金等外部資金に関する事項
- 3) 市民講座等地域貢献に関する事項
- 4) サテライトキャンパスの活用に関する事項
- 5) 産学官金連携に関する事項
- 6) 国際交流その他の国内外のネットワークに関する事項
- 7) 知的財産に関する事項

研究支援地域連携センターは設置者である札幌市との連携のほか、「札幌芸術の森」や「北海道立総合研究機構」と連携協定を締結し、さらに北海道中小企業家同友会産学連携研究会（HoPE）や R&B パーク札幌大通サテライト（HiNT）運営協議会に参加して産学官金連携・地域連携に取り組んでいます。



【研究支援地域連携センターにおける社会との連携・協力に関する方針】

- 1 地域に資する研究の推進に加え、その研究成果を還元し、本学の持てる知的資源を活用するために、公開講座等を通じて、地域社会の人材育成、専門職の継続教育を推進する。
- 2 本学の構成員が、地域社会、産業界あるいは地方自治体等行政と連携をすることにより、本学が地域社会に果たすべき役割を積極的に担うことを支援する。
- 3 日本にとどまらず、アジア及び世界に視野を向け、協働し、本学の教育及び研究の交流を更に発展させることを支援する。

SCU産学官金連携相談窓口

研究支援地域連携センターでは、産学官金連携・地域連携にさらに積極的に取り組むため「SCU産学官金連携相談窓口」を開設しています。こんな時、ぜひお気軽にご相談ください。

研究・活動の内容を知りたい／札幌市立大学との連携方法について知りたい
教員を紹介してほしい／公開講座等の行事等について知りたい など…

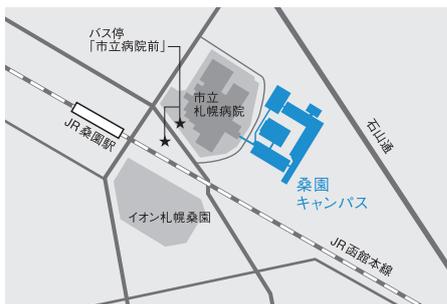
ご来訪の折にはご面倒でもあらかじめ電話またはメールにてご連絡をお願いいたします。
日時と場所をご相談させていただき、下記いずれかのキャンパスで承ります。

お問い合わせ・連絡先 札幌市立大学 地域連携課 地域・産学連携担当
〒005-0864 札幌市南区芸術の森1丁目
TEL：011-592-2346 FAX：011-592-2369 E-mail：crc@scu.ac.jp



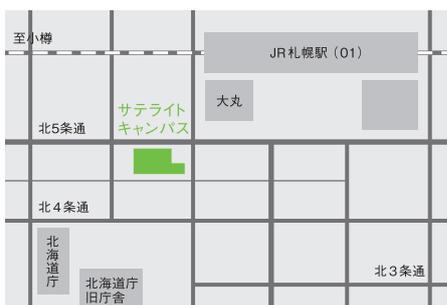
1. 芸術の森キャンパス

場所 札幌市立大学 芸術の森キャンパス
〒005-0864 札幌市南区芸術の森1丁目
Tel 011-592-2300(代表)



2. 桑園キャンパス

場所 札幌市立大学 桑園キャンパス
〒060-0011 札幌市中央区北11条西13丁目
Tel 011-726-2500(代表)



3. サテライトキャンパス

場所 札幌市立大学 サテライトキャンパス
〒060-0004 札幌市中央区北4条西5丁目 アスティ 45 ビル12階
Tel 011-218-7500

札幌市立大学 研究・活動事例集 2024

編集 札幌市立大学研究支援地域連携センター

発行日 2024（令和6）年7月16日

発行 札幌市立大学研究支援地域連携センター

〒005-0864 札幌市南区芸術の森1丁目

TEL.011-592-2346

FAX.011-592-2369

<https://www.scu.ac.jp>

E-mail:crc@scu.ac.jp